

将来姿を消すソメイヨシノ？ 日本の桜事情

日本で桜と言えばソメイヨシノ。桜全体の80%を占めている。毎年4月になると春の到来とワクワク感を持ってきてくれるソメイヨシノですが病気に弱いのが弱点です(てんぐ巣病)。

戦後に大量に植えられた多くのソメイヨシノが寿命を迎えつつあります。ソメイヨシノの寿命は約60年。

公益財団法人日本花の会では2009年からソメイヨシノの苗木の販売を中止し、替わって、てんぐ巣病に強く、花がソメイヨシノに類似するジンダイアケボノへの植え替えを推奨しています。

50年後、100年後の花見にはソメイヨシノは見られないか、数少ない生き残りの貴重品種となっていることでしょうか。

ソメイヨシノ→ ソメイヨシノに類似する「神代曙」



日本原産の交雑種の桜。都立神代植物公園に原木がある。

西田尚道が発見した品種で1991年に新品種として登録された。

エドヒガン系の特徴を持ち、ソメイヨシノとほぼ同時期に開花し良く似た花をつけるが、ソメイヨシノに比べて花の色が濃く大輪、樹の大きさはやや小型である。

戦後に大量に植えられた多くのソメイヨシノが寿命を迎えつつあり、ソメイヨシノはてんぐ巣病に弱いため、公益財団法人日本花の会では2009年からソメイヨシノの苗木の販売を中止し、替わって、てんぐ巣病に強く、花がソメイヨシノに類似するジンダイアケボノへの植え替えを推奨している。